

地域に根付いた共同研究を推進

秋田県立大学 生物資源科学部と包括連携協定を締結

>>>2019.03.20

株式会社アルビオン(東京都・中央区、小林 章一代表取締役社長)は、秋田県立大学(秋田県・秋田市、小林 淳一理事長)生物資源科学部(金田 吉弘学部長)と植物研究における包括連携協定を結びましたのでお知らせいたします。

アルビオン白神研究所は、2010年に白神山地のふもとに位置する秋田県藤里町に開設し、化粧品原料となる植物の自社栽培および、植物に特化した原料の開発・基礎研究を行なっています。現在は約62,000㎡の圃場でヨモギやマロウなど約50種の植物を栽培し、5種の植物を化粧品専門店ブランド「イグニス」などの商品にエキスとして配合しています。

植物を栽培して研究するうえで、その地方の気象や環境などの影響も大きいことから地元で根付いた研究が必要であると考えており、開所当時から秋田県立大学の卒業生の採用をはじめとした人材および研究での交流などをきっかけに同校と関係性を深め、このたび植物に関する共同研究を図る目的で包括連携協定を締結いたしました。

3月14日には秋田県庁舎にて佐竹敬久秋田県知事、佐々木文明藤里町長お立会いのもと締結式を開催。

秋田県立大学小林淳一理事長からは「大学が持つ遺伝子解析技術を用いて植物が持つ特性を明確にし、高機能商品の科学的根拠を裏付けることができる。両者の強みを生かすことで、秋田県の新しい産業の振興に寄与すると考えています」とご挨拶をいただき、生物資源科学部金田吉弘学部長と当社小林章一代表取締役社長の両者による署名を行いました。



左より:小林淳一理事長、佐竹秋田県知事、金田吉弘学部長、当社小林章一代表取締役社長、当社染谷高士常務取締役

アルビオンでは今後、秋田県立大学と双方の遺伝資源、遺伝子解析などの技術を活用しながら共同研究を推進し、新しい美容成分の開発などに取り組んでいくほか、産学において広く社会で活躍しうる人材育成に努めてまいります。